

もっと身近に、農業の楽しさを

農のワークショップ開催 [茨城県小美玉市]

年齢や障害の有無に関わらず農業の楽しさを知ってほしい。そんな思いから昨年2月にスタートした「農あるライフ」プロジェクト。(株)藤代範雄デザイン事務所(行方市)が中心となって推進するこのプロジェクトでは、「あらゆる人に農の楽しさを」をコンセプトに、農業と人との

調和を目指してさまざまな研究・開発等を行ってきました。その成果を実証するため、同年8月、NPO法人「玉里しみじみの村」の施設「玉里しみじみの家」にてワークショップを開催。障害者福祉施設「たまりメリーホーム」の皆さまにご参加いただきました。



イベント開催当日、天候にも恵まれた「玉里しみじみの家」の広場に「たまりメリーホーム」利用者の皆さん七名、施設長、介助スタッフの方々が集まりました。車いす利用の方にも農業を楽しんでもらおうと開発された可動式のタイヤプランターを使って、さっそく苗植えが始まりました。

ワークショップでは三つの体験メニューを用意。それぞれ植物や農業の専門家が指導します。「農ドクター」と命名された彼らは、農業の基本を伝えてくれる楽しい農のサポーター。

花の苗や野菜の種の植え方とコツを伝えてくれるのは、「ハナワ種苗」の皆さん。植物を支える棒に数センチおきに印を付け、それを物差し代わりにして種を等間隔で植えるなど、種植えの秘訣を聞きました。参加者は数種類の花の苗から、自分の好きな花を選びます。プランターに植える際は2、3人で協力して行うため、ひとつのタイヤプランターには数種類の花が植えられていきます。手でやさしく土をかけながら、自然とコミュニケーションもはまりました。

重たい土に代わる「木材チップの土」の提供と指導をしてくれたのは、つくば中央農業総合研究センターで農環境の土壌を研究する横山さんと櫻本さん。「プランターに畑が作れる」というほど軽いその木材チップは、

土とは違った感触で参加者の皆さんも興味津々。「旭プランツ」の角谷さんご夫婦は、「イブキジャコウソウ」という植物について教えてくれました。畑にこの「イブキジャコウソウ」を植えると、雑草の繁殖を抑えてきれいな環境を作ることができそうです。「玉里しみじみの家」にて同日開催されていた「うさぎまつり」へ来場していた方々も加わり、大人も子どもも混ざって触れるとハーブのような香りがする苗を植えていきました。

三つの体験メニューをこなし、ワークショップは終了。作業開始前はタイヤプランターを不思議そうに眺めていた皆さんも、いざ植え始めると顔がいきいきと輝きだし、昼食の時間になると「終わらせるのがもったいない」という声が聞かれるほどに作業に熱中された様子。「農」への興味、好奇心は想像以上に高く、さらに多くの方々に農の楽しさを広めるべく、プロジェクトの充実、進化の必要性を感じたプロジェクトメンバーでした。

また、県内の中小企業のビジネスアイデアを支援促進するべく開催された「いはらきビジネススプランコンテスト」(主催・(財)茨城県中小企業振興公社)にて「障害者が農を楽しむプランター」の開発、「農あるライフ」の展開として「が」コンテスト部門の優秀賞を受賞。昨年11月、水戸京成ホテルにて行われた受賞式ではプレゼンテーションを実施し、主催者側からは「あらゆる人に農の楽しさを提供する」という目的を評価した」とのコメントをいただきました。この受賞は日経新聞にも取り上げられ、同様に評価されています。

今後ともプロジェクトを遂行し

車イスでも園芸楽しく
動かせず作業の回転台
伸縮自在なスコップ

人に優しい農具開発
誰でも楽しめる農業を目指し、小美玉市在住のグラフィックデザイナー藤代範雄さん(右)がユニバーサルデザインの農具を開発している。右タイヤを軸にした回転台や伸縮自在なスコップなど、アイデアが詰まった農具を開発し、広く農民的に活用されることを目指している。

住宅公社 早期解散を
茨城県が中間報告

誰が楽しめる農園計画
「農あるライフ」プロジェクト

工夫凝らした農具紹介
デザイナー事務所が体験会

地域総会
障害者にも農業を

左 茨城新聞 (5月9日)
右 茨城新聞 (8月10日)
下 日経新聞 (12月10日)

優秀賞受賞、独自のプランに高評価

近年、農業に対する社会的注目度は高まりを見せています。ガーデニングブームや若者の農帰りに見られる農業への関心は、環境意識の高まりも伴って定着した感があります。

そのような背景から「農あるライフ」プロジェクトもスタート以来、さまざまなメディアに取り上げられ、プランを評価いただいています。

器具の試作第一号が完成した際には、数年前から車いすを利用している長峰さんにタイヤプランターを試用していただきました。続いて本紙で紹介した8月のワークショップを開催。それらの様子は茨城新聞に取材され紙面に掲載されました。

また、県内の中小企業のビジネスアイデアを支援促進するべく開催された「いはらきビジネススプランコンテスト」(主催・(財)茨城県中小企業振興公社)にて「障害者が農を楽しむプランター」の開発、「農あるライフ」の展開として「が」コンテスト部門の優秀賞を受賞。昨年11月、水戸京成ホテルにて行われた受賞式ではプレゼンテーションを実施し、主催者側からは「あらゆる人に農の楽しさを提供する」という目的を評価した」とのコメントをいただきました。この受賞は日経新聞にも取り上げられ、同様に評価されています。



【農あるライフ プロジェクトメンバー】
藤代範雄 (ニューヨーク・アートディレクターズクラブ会員, JAGDA 運営委員), 西尾浩一 (筑波大学大学院にて博士号取得, 福井工業大学講師), 秦野彰二 (上海研究所, 東京大学大学院農学部農学博士), 横山和成 (農学博士), 櫻本直美 (農学博士), 細谷憲 (東北大学教授, 理学博士), 蘇敏哲 (藤代範雄デザイン事務所, 筑波大学大学院博士課程在籍), 西條友弥子 (藤代範雄デザイン事務所, 筑波大学大学院にて修士取得, NPO 法人玉里しみじみの村会員)

